

COMPENDEX に収録された1次資料の  
わが国における入手可能性  
Availability of the Primary Journals  
Covered in COMPENDEX.

田 中 功  
*Isao Tanaka*  
梅 村 弘 行  
*Hiroyuki Umemura*

*Résumé*

As the number of online information retrieval services is increased, needs for obtaining the original articles, of which references are provided online, have become more intense than before.

This paper describes the influence of online information services on document delivery, particularly availability of primary journals in Japan.

Intensive research was carried out to find the degree of availability of primary journals covered in COMPENDEX (issued in 1978) as a whole and in particular, at National Diet Library, Japan Information Center of Science and Technology, and the institutions listed in *Union List of Scientific Periodicals*. Furthermore, detail investigation of primary journals were not available in Japan was made in terms of the types, subject fields, languages, etc.

As the results of the research, it was proved that 1,830 journals, 89.3% of all primary journals (2,050 journals) covered in COMPENDEX, were available in Japan. This figure came to 96.0% when availability was measured in terms of the articles included in those journals instead of them.

Thus, it will be concluded that online users of COMPENDEX can obtain most of primary journals they need even under present circumstances. However, for that purpose, it is necessary to establish a national network in order to assure maximum availability of primary journals.

- I. オンライン情報検索サービスが1次資料の提供におよぼす影響
- II. COMPENDEX を対象とした国内欠落資料悉皆調査
  - A. 調査目的

---

田中 功：日本科学技術情報センター東京支所

Isao Tanaka, Tokyo Branch, Japan Information Center of Science and Technology.

梅村弘行：日本電気株式会社情報処理流通・サービスシステム事業部第二営業部

Hiroyuki Umemura, 2nd Sales Department, EDP Distribution and Service Industries System Division, Nippon Electric Co., Ltd.

COMPENDEX に収録された1次資料のわが国における入手可能性

## B. COMPENDEX

### C. 調査方法

## III. 調査結果の分析

### A. COMPENDEX に収録された1次資料の入手可能性

#### B. 国内欠落資料の特性

## IV. 調査結果の考察

### A. わが国における1次資料入手のためのサービス確立の必要性

#### B. 国内欠落資料の整備にむけて

## I. オンライン情報検索サービスが

### 1次資料の提供におよぼす影響

オンライン情報検索サービスが1次資料の提供におよぼす影響について、アメリカ商務省のPBレポートに「オンライン情報検索サービスの効果」<sup>1)</sup>と題した報告がある。

その中で1次資料の提供に関するアンケート結果が示されており、それによると利用者の多くが、オンライン情報検索サービスの導入によって手持資料以外の資料の使用がふえたことを指摘している。

文献複写要求の状況に関する質問に対しては、つぎのような結果が出ている。

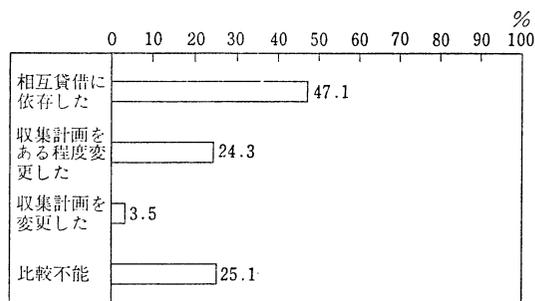
増加した	56%
減少した	2%
変らない	20%
比較不能	15%
無回答	7%

“増加した”のうち“非常に”と“やや”が約半々であり、“減少した”については“非常に”と“やや”がほぼ1対3の割合であった。

つぎに、文献複写要求の増加によって当該機関の収集計画が影響を受けたかという質問に対しては、第1図のような結果が得られた。ただし、これに回答した利用者の数は、前問で“増加した”と答えた利用者の数をこえている。

回答した機関の半数近くが、収集計画を変更せず、おもに“相互貸借に依存した”と答えている。しかし、それによって相互貸借がどのような影響を受けたかについては、この調査では明らかにされていない。

“収集計画を変更した”という回答の大部分が、雑誌購入の増加をあげている。図書への影響が比較的小さいのは、データベースの収録資料として図書を対象にしているものが少ないためであろう。



第1図 文献複写要求の増加が収集計画におよぼす影響

出典：Wanger, J. et al. *Impact of on-line retrieval services; a surveys of users, 1974-75*, Santa Monica, Calif., System Development Corp., 1976. p. 223.

“比較不能”と答えた25.1%の中には、手持資料のない末端の利用者と、オンライン情報検索サービスは行っているが複写サービスはしていないという機関がふくまれていると考えられる。

この調査結果から、オンライン情報検索サービスが導入されると利用者の情報要求が増大し、1次資料を入手するための手段としての相互貸借への依存度が高まると言えよう。

これはあくまでもアメリカでの調査であるが、わが国でも同様な調査を行ったとするとだいたい同じような結果が得られるであろう。

利用者が必要とする情報を当該機関で調達できれば問題ないが、オンライン情報検索サービスに代表されるような科学技術情報の検索システムにおける急速な進歩とともに利用者の情報要求も多様化してきており、当該機関だけでそれに対応することはもはや不可能な状況になっている。そこで注目されてきたのが、ネットワークによる相互協力である。その目的は、当該機関では充足

できない情報要求を他の機関と協力して補完することにある。

今日オンライン・データベースが高度に発達したことによって、必要な資料に関する書誌の事項までは利用者に対して簡単に提供できるようになった。それにともなあって起ってきた問題が、これらの書誌情報にもとづく1次資料の提供である。

## II. COMPENDEX を対象とした 国内欠落資料悉皆調査

### A. 調査目的

わが国でもオンライン情報検索サービスは、急速な勢いで普及するようになった。

現在わが国で使えるデータベースはまだ少ないが、国際電信電話株式会社の ICAS (International Computer Access Service) 認可にともない、DIALOG Information Services, Inc. (以下 DIALOG 社) の DIALOG や SDC (System Development Corporation Search Service) の ORBIT をはじめとするアメリカの数種のサービスが直接利用可能になった。その結果、アメリカにある100種以上のデータベースが端末を公衆通信回線につながりだけで利用できるようになった。したがって、利用可能なデータベースは今後ますます増加していくであろう。

このようなオンライン情報検索サービスの普及にもなると、検索の結果出力された書誌情報にもとづく1次資料の提供という問題が起ってきた。

日本科学技術情報センター (Japan Information Center of Science and Technology: JICST) の JOIS (JICST On-line Information System) の場合、理工学文献ファイルは一応100%入手可能ということになっているが、CAsearch や MEDLARS (MEDical Literature Analysis and Retrieval Systems) については100%確実に入手できるという保証はない。

また、逐次刊行物15万4千タイトルを所蔵し、全要求の95%を満たすと言われる British Library Lending Division のような機能を持った deposit library はわが国には存在していない。

今後とも起こりうるであろう1次資料の入手という問題に関して、現在わが国はどのような状況にあるであろうか。

わが国における1次資料の入手可能性を知る手段として、国内欠落資料悉皆調査があり、今までにもそれに類

するものはいくつか行われている。たとえば、自然科学系では京都大学の近藤禮禎<sup>2)</sup>や東京工業大学の内藤英雄<sup>3)</sup>の例をあげることができる。

近藤の場合は、生物学・医学分野における主要な抄録誌・索引誌である *Index Medicus (IM)*, *Excerpta Medica (EM)*, *Biological Abstracts (BA)*, *Current Contents (CC)*, *Science Citation Index (SCI)*, *Chemical Abstracts (CA)* という6誌の収録対象誌と『現行医学雑誌所在目録』、内藤らの場合は、理工学分野について *CA* を中心に、*Science Abstracts (SA)*, *Engineering Index (Ei)*, *CC* で補足しつつ、それらの収録対象誌と『学術雑誌総合目録 自然科学欧文編』をそれぞれ照合させて国内欠落資料を調査している。また、学術情報システムにおける他の拠点図書館<sup>4)</sup>や社会科学系<sup>5)</sup>でも同様な調査が行われた。

これらの調査が概して複数のデータベースを対象としているのにくらべ、今回の調査では工学という特定の分野における代表的なデータベースである COMPENDEX (COMputerized ENgineering INDEX) だけをとりあげ、その収録対象誌がわが国でどの程度まで入手できるかについて明らかにすることを目的とした。

### B. COMPENDEX

#### 1. 選定理由

数あるオンライン・データベースの中から COMPENDEX を選んだ理由は、以下の3点に要約できる。

① COMPENDEX が、電気、電子、機械、化学、航空、宇宙等の工学関係全分野の文献を収録している2次情報データベースであり、いわゆる文献データベースの中でも代表的なもの1つであること。

② DIALOG 社の DIALOG、東京大学大型計算機センターの TOOL-IR (TOkyo University On-Line Information Retrieval System) や筑波大学学術情報処理センターの UTOPIA (University of Tsukuba On-line Processing of InformAtion) によって提供されているオンライン・データベースであり、現在わが国で利用可能であること。

③ *UNISIST Core List of Journals in Engineering* と題した、1974年から1978年までの5年間にかけて *Ei* に抄録・索引された全記事の80%に相当するコア・ジャーナル732タイトルのリストが存在すること。このリストにふくまれる雑誌は、*Ei* に収録されている工学分野における記事の総件数に対する *Ei* で収録されている各誌における記事件数の割合にもとづ

## COMPENDEX に収録された1次資料のわが国における入手可能性

いて選定されたものである。これによって、コア・ジャーナルおよびそれに収録された記事単位での入手可能性を知ることができる。

### 2. データベースの概要

COMPENDEX は、アメリカの Ei 社が1884年以来発行している工学関係抄録誌 *Ei* の機械可読版で、他の多くの文献データベースと同様に *Ei* 編集過程の電算化によって得られる副産物を商品化したものである。

*Ei* が磁気テープに収録されはじめたのは1969年で、COMPENDEX の提供機関としては DIALOG 社と SDC がある。Computerized Engineering Index という名のとおり、*Ei* の月刊版と正確に対応する収録レコードを持つファイルが毎月発行されている。

COMPENDEX の収録対象となる1次資料の範囲については、“世界的にみて主たる工学関係の雑誌、会議録、政府・大学その他機関の報告類から論文を収録する<sup>6)</sup>”となっている。

収録対象誌のリストとして *Publications Indexed for Engineering (PIE)* が毎年発行されており、その前年に収録対象となった逐次刊行物がリストされている。*PIE* 1979年版によると、1978年度の収録対象誌は2,400タイトル程度である。また、今回の調査で使用するCOMPENDEX の1978年版には、50ヶ国で発行され15種類の言語で書かれている3,000以上の1次資料が収録されている。

収録されている1次資料について形態別にみると、

雑誌	65%
会議録	29%
レポート	5%
その他	1%

といった割合になっている。<sup>7)</sup> また、言語別では英語が全体の77%を占めており、発行国からみてもアメリカが47%という高い数字を示している。<sup>8)</sup>

つぎに、抄録の収録件数をみると、1979年は99,956件で、月別では最高9,450件、最低6,863件、平均8,333件であった。<sup>9)</sup> 1978年が95,753件であったから、今後は年間10~11万件程度の収録件数になるであろう。過去の蓄積については、1969年1月から1978年末までで累積件数77万件にのぼっている。

### C. 調査方法

#### 1. 調査対象機関の選定

今回の調査では、その対象として国立国会図書館(National Diet Library: NDL)、JICST、『学術雑誌総合目

録』収録機関を選んだ。

わが国でどの程度まで1次資料を入手できるかを調査しようとする場合、どのような図書館あるいは情報センターを調べればわが国の現状を把握できるかが問題になる。

一般に、わが国で学術研究に必要な雑誌、図書やその他の出版物は、おもに大学図書館、NDL、公共図書館において収集され、利用者の要求に応じて提供されてきた。現在前記の各図書館が所蔵している全資料は約1億7千万冊であるが、その内訳をみると、

大学図書館	60%
公共図書館	38%
NDL	2%

となっている。<sup>10)</sup>

公共図書館は約38%を所蔵しているが、学術研究という側面から考えると一部を除きその対象となるものは少なく、わが国における学術研究用の1次資料の大部分が大学図書館に存在していると言えよう。したがって、大学図書館が238館収録されている『学術雑誌総合目録自然科学欧文編』は調査対象からははずせない。

NDLの所蔵資料は全体のわずか2%にしかならないが、わが国唯一の国立図書館であり納本図書館でもあるという特殊性を考えるとやはりはずすことはできない。

つぎに、調査対象が工学分野の代表的なデータベースであるCOMPENDEXということ考えた場合、わが国における科学技術分野の専門センターとして設立されたJICSTが1次資料の提供にはたしている役割は大きい。したがって、JICSTも調査対象機関とした。

#### 2. 使用ツール

COMPENDEXを対象とした国内欠落資料悉皆調査を行う際に使用したツールは、第1表のとおりである。

#### 3. 作業手順

今回の調査は、所蔵調査と分析調査にわけられる。所蔵調査はCOMPENDEXに収録されている1次資料のわが国における入手可能性について調べたものであり、分析調査は所蔵調査の結果わが国で未収集のものについてその特性を明らかにしたものである。

作業手順をフローチャートで表すと、第2図のようになる。

#### 4. 照合作業上の留意点

COMPENDEXを対象とした国内欠落資料悉皆調査を行っていく過程でいくつか留意すべき事項があるので、ここでまとめてとりあげておく。

第1表 使用ツール一覧

(1) Publications Indexed for Engineering in the 1978 Ei Database					
所蔵調査	国立国会図書館	雑誌	欧文	(2) 国立国会図書館所蔵欧文雑誌目録 1978年末現在 (3) 国立国会図書館所蔵欧文雑誌目録 追録 1979年1月～1980年6月	
			和文	(4) 国立国会図書館所蔵和雑誌目録 昭和54年末現在 (5) 国立国会図書館所蔵和雑誌目録 追録 昭和55年1月～9月	
		会議録・図書		(6) 国立国会図書館所蔵科学技術関係会議録目録 1970～1976	
		レポートその他		(7) 国立国会図書館 科学技術資料室資料一覧 1979年末現在	
	日本科学技術情報センター	雑誌	欧文	(8) 逐次刊行物所蔵目録 1979.6.30 現在	(8a) 外国雑誌所蔵目録
			和文		(8b) 国内雑誌所蔵目録
		会議録・図書			(8c) 会議資料所蔵目録
		レポートその他			(8d) 学協会ペーパー所蔵目録 (8e) 技術レポート所蔵目録
	『学術雑誌総合目録』 収録機関	雑誌	欧文		(9) 学術雑誌総合目録 自然科学欧文編 1979年版 (10) 自然科学系拠点図書館外国雑誌目録
			和文	(11) 学術雑誌総合目録 自然科学和文編 1968年版	
		会議録・図書		(12) 新収洋書総合目録 1977	
					(13) 日本科学技術関係逐次刊行物目録 1979
分析調査	コア・ジャーナル	(14) UNISIST Core List of Journals in Engineering (Pilot Version)			
	国内欠落資料	(15) Ulrich's International Periodicals Directory 17th ed. 1977-1978			
		(16) Irregular Serials and Annuals; an International Directory 5th ed. 1978-1979			
		(17) Source of Serials; an International Publisher and Corporate Author Directory to Ulrich's and Irregular Serials and Annuals			

所蔵調査、分析調査のいずれにおいても照合作業が中心となるが、目録やリスト等はデータの記述方法が統一されておらずそれによって誌名のとり方が異なってくるため、可能性のある誌名をいくつか想定しながら作業をすすめていかなければならない。

JICST の『逐次刊行物所蔵目録』のように KWIC (Key Word In Context) 索引があれば非常に便利であるが、ない場合には国際標準逐次刊行物番号 (International Standard Serial Number: ISSN) や CODEN も手がかりにして照合作業を行わねばならず、ある程度のもれが生じることは避けられないであろう。

### III. 調査結果の分析

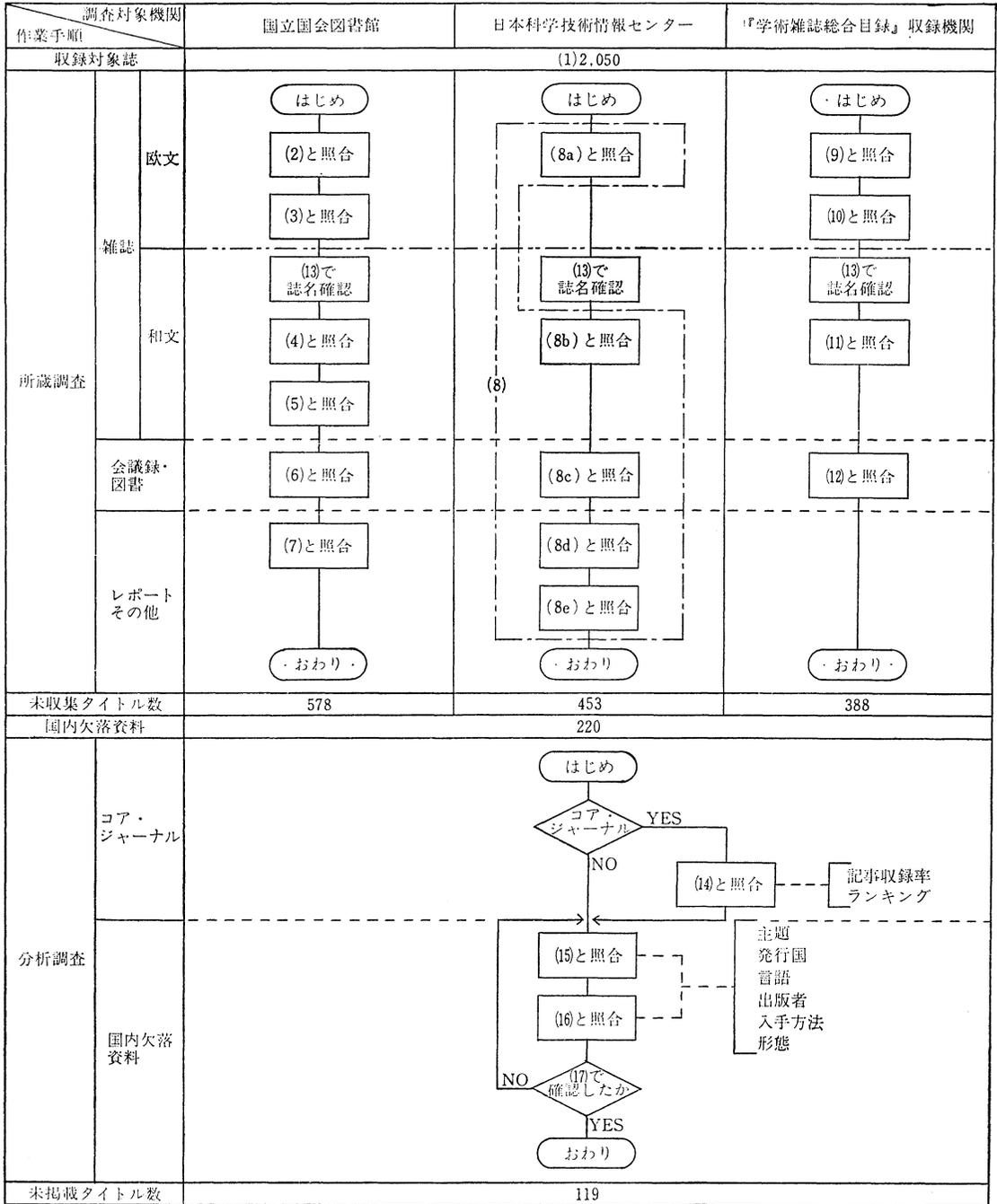
#### A. COMPENDEX に収録された1次資料の入手可能性

##### 1. 調査対象機関の比較

COMPENDEX に収録されている1次資料のNDL、JICST、『学術雑誌総合目録』収録機関それぞれにおける入手可能タイトル数は、第2表のとおりである。

NDL については1,472タイトル (71.8%)、JICST については1,597タイトル (77.9%)、『学術雑誌総合目録』収録機関については1,662タイトル (81.1%) が入手可能

COMPENDEX に収録された1次資料のわが国における入手可能性



第2図 作業手順のフローチャート

注) ( ) 内の数字は、第1表の各ツールの番号に対応している。

第2表 調査対象機関別の入手可能性

調査対象機関	雑誌単位						記事単位			
	収録対象誌			コア・ジャーナル			コア・ジャーナル			入手可能性 (%)
	タイトル数	入手可能タイトル数	入手可能性 (%)	タイトル数	入手可能タイトル数	入手可能性 (%)	記事収録率	入手可能タイトルの記事収録率	入手可能性 (%)	
国立国会図書館	2,050	1,472	71.8	732	675	92.2	80.0	74.27	92.8	86.4
日本科学技術情報センター		1,597	77.9		666	91.0		72.64	90.8	86.8
『学術雑誌総合目録』収録機関		1,662	81.1		687	93.9		74.20	92.8	89.0
わが国における入手可能性		1,830	89.3		725	99.0		79.23	99.0	96.0

注) 入手可能タイトルの記事収録率 = 記事収録率 - 調査対象機関別の未収集コア・ジャーナルの記事収録率

である。

コア・ジャーナルに着目してみると、NDL については675タイトル (92.2%)、JICSTについては666タイトル (91.0%)、『学術雑誌総合目録』収録機関については687タイトル (93.9%) が入手可能となっている。

コア・ジャーナルのリストである *UNISIST Core List of Journals in Engineering* 中の記事収録率<sup>1)</sup>による入手可能性をみると、コア・ジャーナルに掲載されている全記事に対して NDL では92.8%、JICST では90.8%、『学術雑誌総合目録』収録機関では92.8%であった。

また、記事単位での入手可能性は、つぎのような式で算出した。ただし、この式ではコア・ジャーナル以外の収録対象誌1タイトルあたりの記事収録率が一定であると仮定している。

$$A = B + \frac{D \cdot E}{C}$$

- A : 調査対象機関別の記事単位での入手可能性
  - B : 入手可能なコア・ジャーナルの記事収録率
  - C : コア・ジャーナル以外の収録対象誌 (1,318タイトル)
  - D : コア・ジャーナル以外の収録対象誌の記事収録率 (20%)
  - E : 調査対象機関別のコア・ジャーナル以外の入手可能タイトル数
- NDL における記事単位での入手可能性を試算して

みると、入手可能なコア・ジャーナルだけで全記事の74.27%が充足でき、残りの20%を占めるコア・ジャーナル以外の入手可能タイトル数が797であるから、単純に比を求めれば12.1%が入手可能ということになる。それらをあわせると、Ei に抄録・索引されている全記事のうち86.4%が充足できることになる。

同様に JICST、『学術雑誌総合目録』収録機関についても記事単位での入手可能性を計算してみると、それぞれ86.8%、89.0%になる。

これらの数字は雑誌単位での入手可能性とくらべかなり高くなっているが、その理由としてはコア・ジャーナルの入手可能性の高いことがあげられよう。

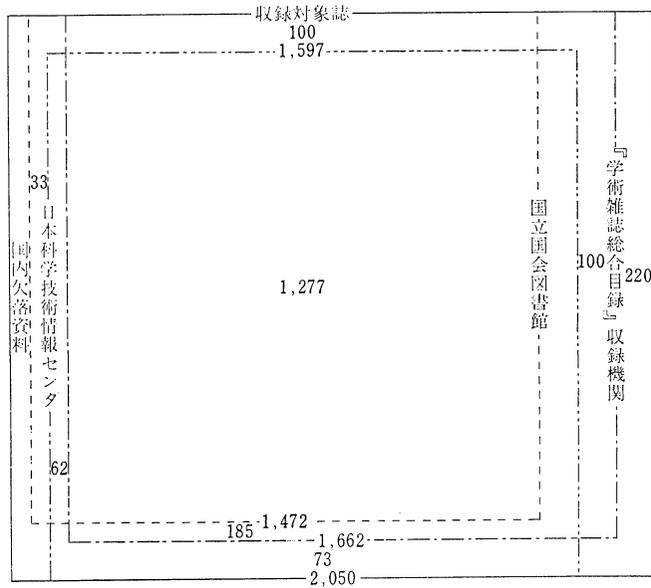
## 2. わが国における入手可能性

COMPENDEX に収録された1次資料のうち、わが国で入手可能なものについて図式化したものが第3図である。

調査対象機関のいずれにおいても入手可能なものは1,277タイトル (62.2%) で、NDL と JICST では62タイトル (3.0%)、JICST と『学術雑誌総合目録』収録機関では185タイトル (9.0%)、『学術雑誌総合目録』収録機関と NDL では100タイトル (4.9%) が入手可能であった。

1 機関しか所蔵していないものについては NDL が33タイトル (1.7%)、JICST が73タイトル (3.6%)、『学術雑誌総合目録』収録機関が100タイトル (4.9%) であった。

COMPENDEX に収録された1次資料のわが国における入手可能性



第3図 COMPENDEX に収録された1次資料の入手可能タイトル数

同様に、コア・ジャーナルについてみたものが第4図である。

調査対象機関のいずれにおいても所蔵しているものは612タイトル(83.6%)で、NDLとJICSTでは17タイ

トル(2.3%)、JICSTと『学術雑誌総合目録』収録機関では25タイトル(3.4%)、『学術雑誌総合目録』収録機関とNDLでは37タイトル(5.1%)が入手可能である。

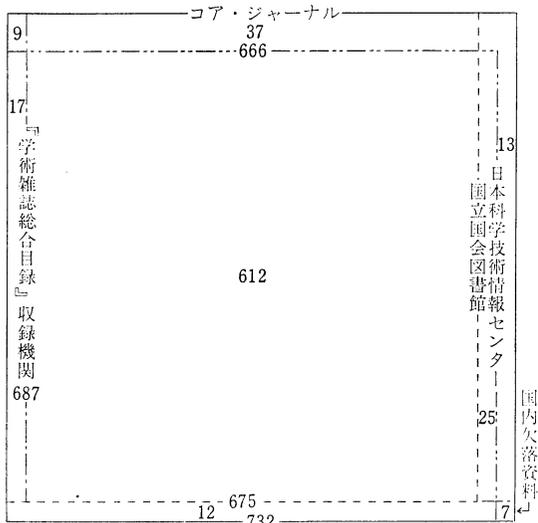
1機関しか所蔵していないコア・ジャーナルについてみると、NDLが9タイトル(1.2%)、JICSTが12タイトルが(1.6%)、『学術雑誌総合目録』収録機関が13タイトル(1.8%)となっている。

以上のような結果をまとめてみると、わが国においてはCOMPENDEXに収録されている1次資料2,050タイトルのうち1,830タイトル(89.3%)が入手可能となり、コア・ジャーナル732タイトルについても725タイトル(99.0%)が入手可能ということになる。

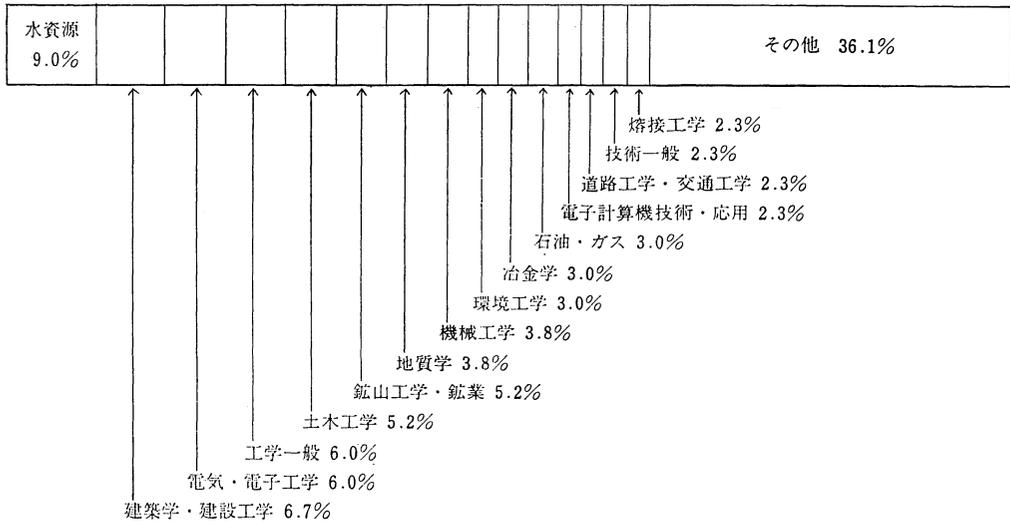
つぎに、わが国における記事単位での入手可能性をみると、Eiに抄録・索引されている全記事の96.0%が充足できることになる。雑誌単位での入手可能性が89.3%であることとくらべるとこの数字もやはり高くなっているが、その理由としては99.0%というコア・ジャーナルの入手可能性の高さがあげられよう。

**B. 国内欠落資料の特性**

COMPENDEXに収録されている1次資料の中で調査対象機関のいずれにおいても未収集のものについて、主題、発行国、言語、出版者、入手方法、形態という6項目の分析調査を行った。

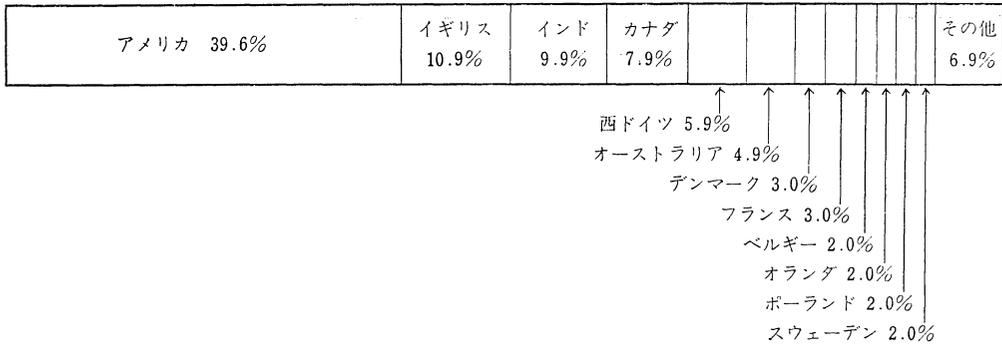


第4図 COMPENDEX に収録されたコア・ジャーナルの入手可能タイトル数

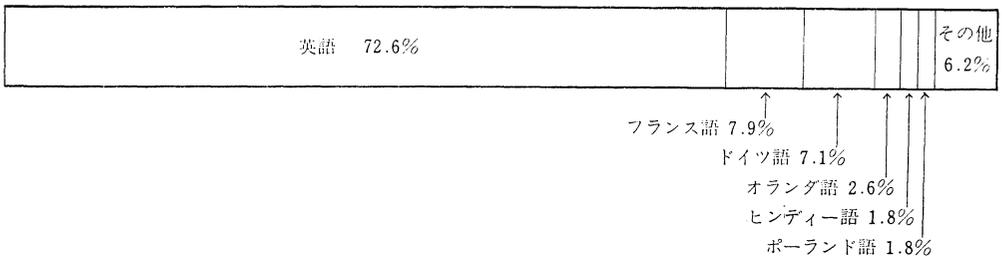


第5図 主題からみた国内欠落資料の特性

注) 複数主題にわたる場合には、それぞれを1つとして集計した。



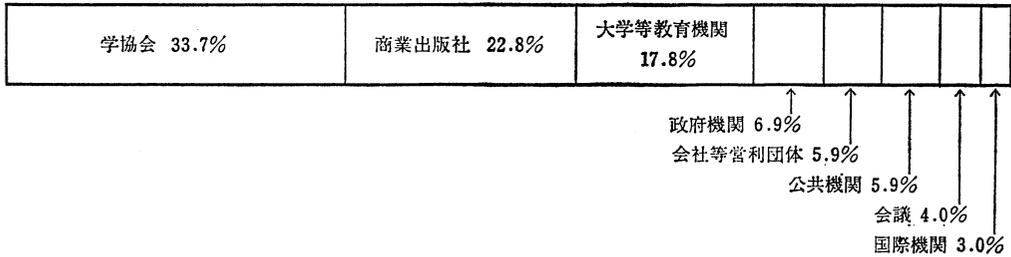
第6図 発行国からみた国内欠落資料の特性



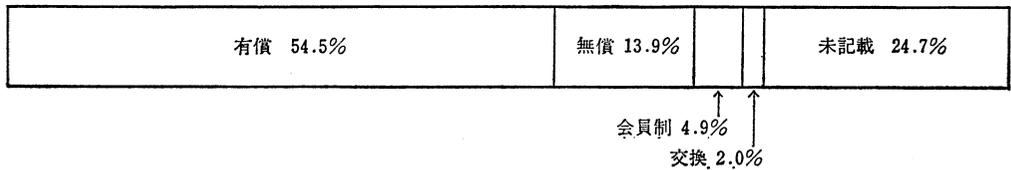
第7図 言語からみた国内欠落資料の特性

注) 多言語誌の場合は、それぞれを1つとして集計した。

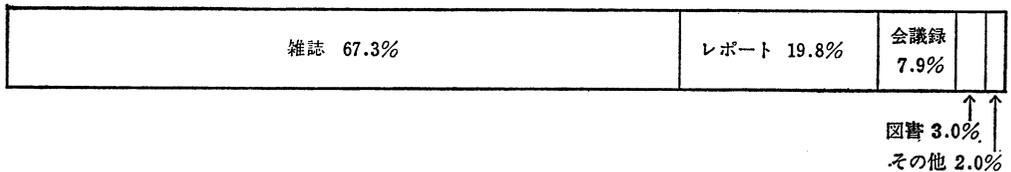
COMPENDEX に収録された1次資料のわが国における入手可能性



第8図 出版者からみた国内欠落資料の特性



第9図 入手方法からみた国内欠落資料の特性



第10図 形態からみた国内欠落資料の特性

第3表 わが国で未収集のコア・ジャーナル一覧

誌名	記事収録率	ランキング
NTISearch	0.25	85
American National Standards Institute, Standards	0.17	149
RCA Engineer	0.10	322
New Electronics	0.07	485
Bundesministerium fuer Forshung und Technologie, Forschungsbericht, Technologische Forshung und Entwicklung	0.07	529
Transport & Road Research Laboratory (Great Britain), TRRL Report	0.06	565
Technical Report-US Army Engineer Waterways Experiment Station	0.05	617

注) 表中の記事収録率, ランキングは UNISIST Core List of Journals in Engineering にもとづいている.

わが国で未収集の1次資料220タイトルのうちUlrich's *International Periodicals Directory* と *Irregular Serials and Annuals* に掲載されていたものは101タイトル(45.9%)であり、コア・ジャーナルについては7タイトル中2タイトル(28.6%)しか掲載されていなかった。いずれも掲載率がかなり低くなっているが、未収集の1次資料がレポートや会議録といった特殊なものであるために全分野を包括する代表的な逐次刊行物のダイレクトリーである前記2誌にも掲載されなかったのであろう。

わが国で未収集の1次資料について分析した結果を、第5～10図に示した。また、未収集のコア・ジャーナルは第3表のとおりである。

#### IV. 調査結果の考察

COMPENDEX を対象とした国内欠落資料悉皆調査を行った結果として、つぎの2点に言及しておく。それは、わが国において1次資料を入手するための全国的なネットワークを早期に確立する必要性と、国内で未収集の1次資料を整備する問題である。

##### A. わが国における1次資料入手のためのサービス確立の必要性

COMPENDEX に収録された1次資料のわが国における入手可能性が雑誌単位で89.3%、コア・ジャーナルの記事収録率を併用した記事単位では96.0%という高い数字を示したことから、COMPENDEX に関しては現状のままでも利用者が必要とする1次資料のほとんどが入手可能であることが明らかになった。

ただし、それもNDL、JICST、『学術雑誌総合目録』収録機関をあわせた場合にはじめて可能なことであって、『学術雑誌総合目録』収録機関だけのネットワークを考えると、入手可能性は雑誌単位で81.1%、記事単位でも89.0%にさがってしまう。しかも、この数字自体ネットワークが形成された場合という仮定にもとづいて計算されたものである。

文部省が現在すすめている学術情報システムは、今後公立大学や私立大学をふくめたより包括的なネットワークへと発展していくことが予想されるが、全国的なネットワークを形成するまでにはかなりの時間を要するであろう。

一方、NDL と JICST は雑誌単位でそれぞれ71.8%、77.9%が入手可能であり、記事単位でみるとその数字は86.4%、86.8%にまであがる。

ただし、現在NDLは本格的な相互貸借を行ってお

ず、科学技術分野の専門センターであるJICSTもいろいろな点でネットワークにくみこむには無理があるろう。

しかし、今回の調査結果からもわかるとおり、学術情報システムをその中心にすえとしてもNDLやJICSTを何らかの形でくみこんだ学術情報の全国的なネットワークあるいは利用体制というものを早期に確立しなければならぬ。

オンライン・データベースが高度に発達したとしても、検索の結果出力された書誌情報にもとづく1次資料が入手できなければ、利用者にとってオンライン情報検索サービスというものは何の意味もなさないのである。

##### B. 国内欠落資料の整備にむけて

COMPENDEX に収録された1次資料のうちわが国で未収集のものは220タイトル(10.7%)であり、コア・ジャーナルについては第3表の7タイトル(1.0%)が未収集であった。

国内欠落資料のうちコア・ジャーナルの占める割合は雑誌単位では3.2%にしかすぎないが、これを記事単位でみると19.3%に相当する。

すなわち、コア・ジャーナル7タイトルを収集するだけで記事単位での入手可能性は96.8%にまであがることになる。残りの213タイトルをすべて収集したとしても記事単位での入手可能性が3.2%しかあがらないことを考えると、コア・ジャーナルを100%入手可能にすることが必要であろう。

しかし、コア・ジャーナル7タイトルについてみると、雑誌は2タイトルだけで残りはレポートと規格である。そのうち規格は日本規格協会を通じて入手することができ、レポートもPBレポートやADレポートとしてアメリカ政府から刊行されている可能性がある。そうすると、その種のもはNDLより入手できることになる。以上のような点を考えると、コア・ジャーナルのほとんどは入手可能であると言ってもよいであろう。

コア・ジャーナル以外の国内欠落資料については単純集計だけでクロス集計を行っていないため、どのようなタイプの1次資料が未収集であるのかをパターン化することはできなかった。

しかし、単純集計だけから判断すると、アメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリアを中心とした英語圏で発行されている逐次刊行物のうち、学協会の会報とか大学、研究所等の紀要といったような1次資料が未収集なのではないかと考えられる。

今後の課題としては1次資料の体系的で効率のよい収

COMPENDEX に収録された1次資料のわが国における入手可能性

集整備があげられるが、COMPENDEX に関しては学術情報システムにおける理工学系拠点図書館である東京工業大学附属図書館のはたす役割が大きくなるであろう。

付記

本稿をまとめるにあたり慶應義塾大学図書館・情報学科の細野公男助教授と、調査にあたっていろいろと便宜をはかっていただいた国立国会図書館の山口義一氏に対し謝意を表したい。

- 1) Wanger, J., et al. *Impact of on-line retrieval services; a surveys of users, 1974-75*. Santa Monica, Calif., System Development Corp., 1976, p. 222-4.
- 2) 近藤禎禎男. "学術雑誌の評価, 選択, 運用; 生物医学分野における共同利用のために," 東京大学図書館・情報学セミナー研究集録, vol. 9, 1977, p. 51-140.
- 3) 内藤英雄他. "理工学拠点図書館の一次資料収集について; 東京工業大学附属図書館が行った国内欠落資料しっかい(悉皆)調査を中心として," 大学図書館研究, no. 17, 1980, p. 65-75.
- 4) 松浦正他. "医学・生物学系拠点図書館の一次資料収集について; 大阪大学附属図書館中之島分館における4年間の経過, 現状および今後の課題," 大学図書館研究, no. 17, 1980, p. 76-86.
- 5) 武内博. "教育一次情報の分析とその収集に就いての一考察; ERIC を中心として," 東京大学図書館・情報学セミナー研究集録, vol. 12, 1979, p. 61-93.
- 6) 根岸正光. "COMPENDEX(工学)," 情報管理, vol. 23, 1980, p. 624.
- 7) Williams, Martha E. and Rouse, Sandra H. *Computer-readable bibliographic database; a directory and data source book*. Washington D. C., American Society for Information Science, 1979, p. 239.
- 8) *Ibid.*, p. 239.
- 9) 根岸, *op. cit.*, p. 624.
- 10) 学術審議会. "今後における学術情報システムの在り方について(答申)," 学術月報, vol. 32, no. 17, 1980, p. 726.
- 11) コア・ジャーナルの記事収録率とは, 1974年から1978年までの5年間にかけて *Ei* に収録された工学関係記事の総件数で, 各コア・ジャーナルにおける同じ5年間に *Ei* に収録された工学分野の記事の総件数をわった数字である.